

## 四方記念地球環境保全研究助成基金

### 助成以降の当基金研究に関連する主要な論文リスト

この度、当基金の第1回（平成2年度）から第15回（平成16年度）までの助成者の方に助成以降の当基金研究に関連する主要な論文リストのご提供をお願いし、ご協力いただきました。

助成年度	平成2年度
研究者名	宮本 太
助成時の所属・職	東京農業大学・農学部・助手
研究課題名	ヒマラヤ地域の湿原植物の種の保全についての基礎的研究
現在の所属・職	東京農業大学・農学部・教授

#### 主要研究業績

- Miyamoto F, Ohba H. (1993) Two new species of *Juncus* from East Nepal. J. Jpn. Bot. 68: 27-31.
- Miyamoto F, Ohba H. (1995) Taxonomic studies of the *Juncus himalensis* group in Himalaya. J. Jpn. Bot. 70: 245-257.
- Miyamoto F, Ohba H. (1996) A new species of *Gentiana* Sect. Chondrophyae Ser. Capitatae (Gentianaceae) from East Nepal. J. Jpn. Bot. 71: 44-48.
- Miyamoto F, Ohba H. (1997) Two new species of *Juncus* from Szechuan in Southwest China. J. Jpn. Bot. 72: 162-167.
- Miyamoto F, Ohba H. (1997) A new species resembling *Cheilanthes rufa* in Himalaya and Thailand. J. Jpn. Bot. 72: 168-171.
- Miyamoto F, Ohba H. (1997) A new species of close to *Juncus benghalensis* in East Himalaya. J. Jpn. Bot. 72: 293-296.
- Miyamoto F, Ohba H. (1998) Biogeography and taxonomy of *Eriocaulon atrum* Nakai and *E. kiusianum* Maximowicz (Eriocaulaceae). University Museum, University of Tokyo, Bulletin No. 37, pp. 153-170.
- Miyamoto F, Ohba H. (1999) Studies of *Juncus* (Juncaceae) in the Sino-Himalayan Region. I: Notes on some species in Southwest China. J. Jpn. Bot. 74: 72-81.
- Miyamoto F, Ohba H. (1999) Studies of *Juncus* (Juncaceae) in the Sino-Himalayan Region. II: Taxonomical studies of the *Juncus duthiei* group. J. Jpn. Bot. 77: 24-35.
- Miyamoto F, Akiyama S, Wu S-K, Ohba H. (2002) New and noteworthy species of *Bistorta* (Polygonaceae) from the Sino-Himalayan region. Bulletin of the National Science Museum Series B (Botany) 28: 141-148.
- Miyamoto F, Ohba H. (2003) Studies of the flora of Mustang, Central Nepal. 1: The genus *Juncus* (Juncaceae). J. Jpn. Bot. 78: 152-157.
- Miyamoto F, Akiyama S, Wu S-K, Ohba H. (2004) A new species and a new variety of *Bistorta* (Polygonaceae) from the Sino-Himalayan region. Bulletin of the National Science Museum Series B (Botany) 30: 109-115.
- Miyamoto F, Ohba H. (2006) *Bistorta tenuifolia* (H. W. Kung) Miyam. & H. Ohba (Polygonaceae), a new addition to the flora of Nepal Studies of the Flora of

Mustang, Central Nepal 3. J. Jpn. Bot. 80: 278-281.

Miyamoto F. (2010) A systematic revision of *Juncus* (Juncaceae) in the Sino-Himalaya region. University Museum, University of Tokyo, Bulletin 45: 1-131.

助成年度	平成3年度
研究者名	佐藤 卓
助成時の所属・職	富山県立高岡高等学校・教諭
研究課題名	ボルネオ島の熱帯山地林に見られるラフレシアの保護について
現在の所属・職	富山県立桜井高等学校・教頭

#### 主要研究業績

- Cheksum T, Sato T, Naruhasi N. (1991) Taxonomical studies of *Rubus satotakashii* and related species in Mt. Kinabalu, Borneo: II: Flower and fruit. *J. Phytogeogr. Taxon.* 39: 31-39.
- 佐藤 卓 (1991) キナバル山の植物. 自費出版. 128 pp.
- Sato T. (1993) Leaf anatomy of the Siberian and Japanese plants of *Pinus pumila* Regel. *Ann. Rep. Bot. Gard. Fac. Sci., Kanazawa Univ.* 16: 19-24.
- 佐藤 卓 (1993) 立山産ゴヨウマツ類の球果と種鱗の形態変異. *植物研究誌* 68: 277-288.
- 佐藤 卓 (1993) 立山産ゴヨウマツ類の種子形態の変異. *植物地理分類研究* 41: 7-13.
- 佐藤 卓 (1994) 日本産ゴヨウマツ類の針葉形態. *金沢大学理学部附属植物園年報* 17: 13-19.
- 佐藤 卓 (1994) ハイマツ *Pinus pumila* (Pallas) Regel の葉の解剖学的性質の地理的変異. *富山市科学文化センター研究報告* 17: 83-90.
- 佐藤 卓 (1994) 「二上山のブナ林は低地型ブナ林」弘源禅寺総合調査団編『越中二上山と国泰寺』桂書房 pp. 45-50.
- 佐藤 卓 (1994) ボルネオ島の熱帯山地林に見られるラフレシアの生態について. *熱帯林業* 30: 21-29.
- Sato T. (1995) Multivariate analysis of needle size and its anatomical traits of *Pinus* subgenus *Haploxylon* (soft pine) on Mt. Tateyama, Toyama Prefecture, Japan. *J. Jpn. Bot.* 70: 253-259.
- Sato T. (1995) On the distribution of the population with ideoblasts in needle of *Pinus* subgenus *Haploxylon* in Japan. *Ann. Rep. Bot. Gard. Fac. Sci., Kanazawa Univ.* 18: 7-13.
- 佐藤 卓・平内好子・松村 勉 (1995) 瀬戸蔵山ブナ林の森林構造と土壌動物. *富山市科学文化センター研究報告* 18: 19-29.
- 佐藤 卓・松村 勉・小川徳重・平内好子・信清儀和 (1995) 立山カルデラ内に見られる主要な森林群落の構造と二次遷移について. *富山の生物* 34: 12-19.
- 佐藤 卓・松村 勉 (1997) 「富山県のブナ林」ブナ林研究グループ編『富山のブナ林と生き物たち』 pp. 1-22.
- 松村 勉・平内好子・小川徳重・佐藤 卓 (1998) 富山県魚津市平沢トチノキ林の森林構造とササラダニ類. *富山市科学文化センター研究報告* 21: 15-21.
- 佐藤 卓・平内好子・安井基一 (1998) 富山県片貝川南又谷に見られる洞スギ林の構造. *富山の生物* 37: 11-16.
- 佐藤 卓 (1998) 富山県のブナ林. *富山県高等学校教育研究会生物部会報* 21: 23-29.
- Sugimoto M, Sato T, Iwatsubo Y, Naruhasi N. (1998) A new hybrid of *Anemone* from Japan, *Anemone gokayamensis*. *J. Phytogeogr. Taxon.* 46: 103-107.
- 佐藤 卓・澤田昭芳・野口 泉・平内好子 (1999) 富山県立山周辺のオオシラビソ林の森

- 林構造. 富山の生物 38: 13-21.
- 佐藤 卓・平内好子・野口 泉 (1999) 富山県氷見市床鍋のモミ林の森林構造. 富山市科学文化センター研究報告 22: 127-133.
- 佐藤 卓・平内好子・松村 勉 (2000) 富山県内に見られる代表的森林群落内の温度測定結果. 富山の生物 39: 77-82.
- 佐藤 卓 (2000) 富山県上平村ブナオ峠のブナ林の森林構造について. 富山の生物 39: 21-33.
- 平内好子・佐藤卓 (2000) 富山県白木峰の風衝低木ブナ林の林分構造とササラダニ類. 富山の生物 39: 13-20.
- 佐藤 卓 (2001) 韓国雪岳山エクスペディション. 富山の生物 40: 71-76.
- Sato T. (2001) Geographic variations of *Pinus parviflora* Needle Characteristics. J. Jpn. Bot. 76: 263-274.
- 佐藤 卓 (2001) 富山県立山におけるハイマツ、ハッコウダゴヨウ、ゴヨウマツの球果の形成について. 富山市科学文化センター研究報 24: 83-86.
- 佐藤 卓 (2001) 富山県立山におけるハイマツの年枝成長と春季の気候要因との関係. 富山市科学文化センター研究報 24: 73-81.
- 平内好子・佐藤 卓 (2001) 富山県瀬戸蔵山ブナ林の温度測定結果と融雪期の土壤動物群集. 富山の生物 40: 27-33.
- 松島 亨・佐藤 卓 (2002) 立山カルデラ内主要植物群落内における温度環境調査報告 (速報). 立山カルデラ博物館研究紀要 3: 25-32.
- 佐藤 卓 (2003) 富山県大山町瀬戸蔵山ブナ林の実生とリター量の変化. 富山市科学文化センター研究報 26: 117-122.
- 佐藤 卓・平内好子・野口 泉 (2004) 富山県平村相倉トチノキ林の森林構造とササラダニ類. 富山市科学文化センター研究報告 27: 61-67.
- 佐藤 卓・藤平量郎 (2005) 関東地方の *Pinus parviflora* の地理的変異. 富山市科学文化センター研究報告 28: 81-89.
- 佐藤 卓 (2005) 日本海要素と呼ばれる植物. 富山市日本海文化研究所紀要 18: 13-21.
- 佐藤 卓・平内好子・野口 泉・松村 勉 (2005) 富山県上市町眼目と大松のモミ林の森林構造とササラダニ群集. 富山の生物 44: 27-38.
- 佐藤 卓 (2006) 環境因子と *Pinus parviflora* の針葉形質の関係. 富山市科学文化センター研究報告 29: 105-111.
- 佐藤 卓・天助由佳理 (2006) 2005 年に観察されたブナの結実量とブナの個葉面積の関係. 富山の生物 45] 17-20.
- 松村 勉・平内好子・野口 泉・佐藤 卓 (2006) 富山県魚津市片貝サワグルミ林の森林構造とササラダニ類. 富山の生物 45:1-8.
- 野口 泉・平内好子・佐藤 卓 (2006) 富山県宇奈月ダム湖畔トチノキ林の森林構造とササラダニ類. 富山の生物 45: 9-15.
- 松村 勉・金子靖志・谷口丈明・佐藤 卓・安井基一・野口 泉・平内好子 (2007) 富山県奥黒部のブナ林の森林構造. 富山の生物 46: 39-42.
- 佐藤 卓・野口 泉・平内好子・小川徳重 (2007) 富山県氷見市磯辺神明社のユズリハを伴うモミ林の森林構造. 富山の生物 46: 21-26.
- 佐藤 卓・野口 泉・平内好子・小川徳重 (2007) 富山県氷見市泊神明社のスタジイ林の森林構造. 富山の生物 46: 27-34.
- 佐藤 卓 (2007) 日本海側の植物と気候. 富山県・日本海学推進機構. 富山. pp. 1-56.
- 佐藤 卓 (2007) ゴヨウマツの球果、種鱗、種子サイズの地理的変異. 富山市科学文化セ

ンター研究報告 30: 7-15.

佐藤 卓・松村 勉・野口 泉・石須秀知 (2008) 富山県魚津市角川流域の植生と森林群落の概況. 富山の生物 47: 1-10.

佐藤 卓 (2008) チョウセンゴヨウの地理的変異. 富山市科学博物館研究報告 31: 85-93.

佐藤 卓・松村 勉 (2009) 富山県氷見市余川川流域の植生の概況と碁石ヶ峰コナラ林の森林構造. 富山の生物 48: 3-12.

佐藤 卓・平内好子・氷見栄成・金子靖志 (2009) 富山県氷見市余川川流域の京地モミ林の森林構造とササラダニ群集. 富山の生物 48: 13-22.

佐藤 卓・太田道人 (2009) 富山県に産する日本海要素とその近縁植物の分布の特徴(1). 富山市科学博物館研究報告 32: 13-26.

佐藤 卓・平内好子・松村 勉・野口 泉・安井基一 (2009) 富山県魚津市室田のコナラ-モミ林の森林構造とササラダニ群集. 富山市科学博物館研究報告 32: 27-37.

ウダヤニ・ローズ・ウヱラシハウダヤニ・ローズ・ウヱラシハ

助成年度	平成3年度
研究者名	長谷川 博
助成時の所属・職	東邦大学・理学部・講師
研究課題名	アホウドリの繁殖状況調査と保護のための基礎研究
現在の所属・職	東邦大学・理学部・教授

#### 主要研究業績

- 長谷川 博 (1993) アホウドリのデコイ作戦. どうぶつと動物園 45: 176-179.
- 長谷川 博 (1994) アホウドリ新営巣地の人為的形成: デコイと鳴き声再生放送による誘致. 遺伝 48: 59-63.
- 長谷川 博 (1995) アホウドリたちの憂鬱. 『世界』(岩波書店) 616: 145-152.
- 長谷川 博 (1995) 『風にのれ! アホウドリ』フレーベル館.
- 長谷川 博 (1995) 『アホウドリ 愛のシンフォニー』(長谷川博写真集) 講談社.
- 長谷川 博 (1996) オキノタユウのほほ笑み. 本 (講談社) 21(2): 39-41.
- 長谷川 博 (1996) アホウドリの保護研究 20 年. 遺伝 50(2): 6-7.
- 長谷川 博 (1996) 鳥島のアホウドリ. 中村和郎・氏家宏・池原貞雄・田川日出夫・堀信行 (編) 『南の島々』. 岩波書店. pp. 84-85.
- 長谷川 博 (1997) もうアホウドリとはよびたくない. 月刊言語 (大修館書店) 26(6): 2-3.
- 長谷川 博 (1997) アホウドリはよみがえるか. 科学 67: 211-218.
- 長谷川 博 (1997) 『アホウドリの島』フレーベル館.
- 長谷川 博 (1999) 『よみがえれ あほうどり』チャイルド本社.
- 長谷川 博 (1999) アホウドリは復活するか: 残された課題と展望. 遺伝 53(4): 86-89, 53(5): 54-58.
- 長谷川 博 (2000) アホウドリの復活は確実にになった. 『レッド・データ・アニマルズ (動物世界遺産)』第1巻. 講談社. p. 80.
- 長谷川 博 (2002) 鳥島噴火のアホウドリへの影響は? 遺伝 56: 27-28.
- 長谷川 博 (監修) (2003) アホウドリ. 週刊日本の天然記念物. 小学館.
- 長谷川 博 (2003) 『50羽から5000羽へ: アホウドリの完全復活をめざして』どうぶつ社.
- 長谷川 博 (2004) 復活の風に乗るアホウドリ. エコソフィア (民族自然誌研究会) 13: 74-81.
- 長谷川 博 (2005) アホウドリ復活の夢を追って. 学会会報 852: 94-111.
- 長谷川 博 (2006) 『アホウドリに夢中』新日本出版社.
- 長谷川 博 (2006) 小笠原諸島にアホウドリの第3繁殖地を: 復活にむかってホップ・ステップ・ジャンプ! どうぶつと動物園 (東京動物園協会) 58(1): 4-13.
- 長谷川 博 (2006) アホウドリ: 復活への軌跡. 野鳥 71(1): 19.
- 長谷川 博 (2007) アホウドリ: 再生への飛び立ち. 国立科学博物館ニュース 461: 6-7.

長谷川 博 (2007) 大型海鳥アホウドリの保護. 山岸哲監修・山階鳥類研究所編『保全鳥類学』第4章. 京都大学学術出版会. pp. 89-104.

長谷川 博 (2008) 最終段階に入ったアホウドリの保護. 科学 (岩波書店) 78: 935-37.



助成年度	平成4年度
研究者名	中澤 港
助成時の所属・職	東京大学・医学部・助手
研究課題名	パプアニューギニア低地自然環境における生業活動とマラリア
現在の所属・職	群馬大学・大学院医学系研究科・准教授

#### 主要研究業績

- 中澤 港 (1993) 「病気の生態学」 大塚柳太郎・片山一道・印東道子 (編) 『オセアニア 1 島嶼に生きる』 東京大学出版会. pp. 211-226.
- 大塚柳太郎, ・中澤 港 (1993) パプアニューギニアにおけるマラリア. 熱帯 26: 133-141.
- 中澤 港 (1994) 「マラリアと人口」 香原志勢・大塚柳太郎 (編) 『週刊朝日百科 (動物たちの地球・136) 地球と人間の歴史(4): 広がりゆく人類集団』 朝日新聞社. pp. 119.
- Nakazawa M, Ohtsuka R, Kawabe T, Hongo T, Suzuki T, Inaoka T, Akimichi T, Kano S, Suzuki M. (1994) Differential malaria prevalence among villages of the Gidra in lowland Papua New Guinea. Trop. Geogr. Med. 46: 350-354.
- Nakazawa M, Ohtsuka R, Kawabe T, Hongo T, Inaoka T, Akimichi T, Suzuki T. (1996) Iron nutrition and anaemia in malaria endemic environment: Haematological investigation of the Gidra-speaking population in lowland Papua New Guinea. Br. J. Nutr. 76: 333-346.
- 中澤 港・大塚柳太郎 (1997) 出生力の指標としての TFR と完結パリティの評価. 人口学研究 21: 61-63.
- Nakazawa M, R. Ohtsuka R. (1997) Analysis of completed parity using microsimulation modeling. Math. Pop. Stud. 6(3): 173-186.
- 大塚柳太郎・中澤 港 (1998) 地域生態系とヒト-マラリア伝播過程を中心に. 今日の感染症 17(3): 6-9.
- Nakazawa M, Ohmae H, Leafasia J, Ishii A. (1998) Malaria and its human ecological relations in East Tasimboko, Solomon Islands. In: Ishii A, Nihei N, Sasa M (eds.), Malaria Research in the Solomon Islands, Inter Group Corporation, Tokyo, pp. 132-146.
- Nakazawa M, Ohmae H, Ishii A, Leafasia J. (1998) Malaria infection and human behavioral factors: A stochastic model analysis for direct observation data in the Solomon Islands. Am. J. Hum. Biol. 10: 781-789.
- 中澤 港 (1999) シミュレーション人口によるハテライト指標の評価. 人口学研究 25: 55-57.
- 中澤 港 (1999) ヒトの精子数は"全世界"で減少しているか—減少地域で危険因子の追究を. 科学 69: 58.

- 門司和彦・吉見逸郎・中澤 港・大塚柳太郎 (2000) 人類生態学における方法論的個体主義. 民族衛生 66(1): 3-13.
- 中澤 港 (2000) マニュアル作成の方法論. アジア・太平洋の環境・開発・文化 1: 10-13.
- 大塚柳太郎・須藤健一・中澤 港 (2000) ソロモン諸島地域レポート. アジア・太平洋の環境・開発・文化 1: 53-58.
- 中澤 港 (2000) 小集団人口学—途上国の小集団における人口調査法と得られたデータの分析方法—. アジア・太平洋の環境・開発・文化 1: 82-87.
- Nakazawa M, Ohtsuka R, Hongo T, Inaoka T, Kawabe T, Suzuki T. (2000) Serum biochemical data of the Gidra in lowland Papua New Guinea: Consideration of their normal ranges. *J. Nutr. Environ. Med.* 10(2): 153-162.
- Nakazawa M, Ishii A, Leafasia J. (2000) Demographic effects of modernization in a small village of Solomon Islands. *J. Pop. Stud.* 27: 7-13.
- 中澤 港 (2002) 「13-II. 妊孕力の遺伝要因と環境要因」 In: 日本人口学会編『人口大事典』, 培風館, 東京, pp.481-486.
- 中澤 港 (2002) ソロモン諸島西部州の4つの村落における, 尿試験紙による健康状態の評価. アジア・太平洋の環境・開発・文化 4: 1-10.
- 中澤 港, 大塚柳太郎 (編) (2002) 地域社会での開発にかかわるイベント集. アジア・太平洋の環境・開発・文化 5: 3-88.
- 中澤 港 (2002) 「イベント集」の活用例としてのマルチエージェントモデリング. アジア・太平洋の環境・開発・文化 5: 89-94.
- Nakazawa M, Yamauchi T, Tanaka M, Ishimori D, Furusawa T, Midorikawa T, Ohtsuka R. (2002) Community health assessment by urine dipstick screening in relation to the variety of lifestyles in Solomon Islands. *People Culture Oceania* 18: 35-44.
- 中澤 港 (2003) 日本の年齢別出生力パタンのトレンドの分析. 山口県立大学看護学部紀要 7: 67-76.
- 中澤 港 (2003) 『Rによる統計解析の基礎』, ピアソン・エデュケーション, 東京, 182 pp.
- 中澤 港 (2003) 人間の人口動態. In: 巖佐 庸・松本忠夫・菊沢喜八郎/日本生態学会編『生態学事典』 共立出版, pp. 453-454.
- 中澤 港 (2003) フィールドオブザーベーションからのモデル構築. 日本熱帯医学会雑誌 31: 243-245.
- Mori Y, Nakazawa M. (2003) A new simple etiological model of human death. *J. Pop. Stud.* 33: 27-39.
- 中澤 港, 石森大知 (2004) 「第2章 急速な人口増加の成因と帰結」 In: 大塚柳太郎 (編) 『島の生活世界と開発 (1) ソロモン諸島: 最後の熱帯林』 東京大学出版会, 東京, pp. 35-53.
- 中澤 港 (2004) 「開発と環境保全の相互連関性—マルチエージェント・モデルによる分析」

- In: 大塚柳太郎・篠原徹・松井健 (編) 『島の生活世界と開発 (4) 生活世界からみる新たな人間—環境系』 東京大学出版会, 東京, pp. 137-157.
- 中澤 港 (2004) 「R でシミュレーション」 In: 岡田昌史 (編) 『The R Book: データ解析環境 R の活用事例集』, 九天社, 東京, pp. 133-154.
- 中澤 港 (2004) マラリア流行の数理モデル. 応用数理 14(2): 18-28.
- 中澤 港 (2004) 地域生態系における人類の生存のモデル分析. The Kitakanto Medical Journal 54(3): 233-234.
- Ishii A, Nagai N, Arai M, Hirai M, Matsuoka H, Kaneko A, Kawabata M, Ohta N, Ishikawa H, Nakazawa M, Panjaitan W, Safei, Kere N, Leafasia J (2004) Malaria control studies in Indonesia and Solomon Islands. In: Furukawa H, Nishibuchi M, Kono Y, Kaida Y. (Eds), Ecological Destruction, Health, and Development: Advancing Asian Paradigms, Kyoto University Press, Kyoto, pp. 287-301.
- 中澤 港 (2005) 人類生態学からみた都市の密度. 都市計画, 54(3): 52-55.
- 中澤 港 (2005) 日本の出生力低下の諸要因: 人類生態学からの検討. 日本生態学会関東地区会報, 53: 21-28.
- Utsumi T, Nakazawa M, Kawabata M. (2007) The long-term psychological impact of ethnic tension in adolescents of the Solomon Islands, J. Int. Health 22(2): 89-94.
- 中澤 港 (2007) 「第9章 小集団人口学」 In: 稲葉 寿 (編) 『現代人口学の射程』, ミネルヴァ書房, 京都, pp. 172-195.
- 中澤 港 (2007) 『R による保健医療データ解析演習』, ピアソン・エデュケーション, 東京, 288 pp.

助成年度	平成4年度
研究者名	池田 博
助成時の所属・職	東京大学総合研究資料館植物部門大学院
研究課題名	ネパールヒマラヤ高山帯における人為的影響度を指標する植物種の選定に関する研究
現在の所属・職	東京大学総合研究博物館・准教授

#### 主要研究業績

Ikeda H, Ohba H. (1994) Japan-Nepal cooperative botanical research in Ganesh Himal, central Nepal. Newslet. Himal. Bot. 16: 8-11.

Ikeda H, Ohba H. (1994) Japan-China cooperative botanical research in Yunnan, southwest China. Newslet. Himal. Bot. 16: 12-14.

Ikeda H, Ohba H. (1995) A new species of *Potentilla* sect. *Leptostylae* (Rosaceae) from central Burma. Edinb. J. Bot. 52: 225-228.

Ikeda H, Ohba H. (1996) Taxonomic studies of Himalayan *Potentilla* (Rosaceae). III. On *P. tristis*. J. Jpn. Bot. 71: 67-70.

Ikeda H, Ohba H. (1996) A new species of *Sibbaldia*, *S. emodi* (Rosaceae) from east Nepal. J. Jpn. Bot. 71: 188-190.

Ikeda H, Ohba H. (1996) Taxonomic studies of Himalayan *Potentilla* (Rosaceae). IV. Polyploidy of *P. peduncularis* D. Don with description of a natural hybrid. J. Jpn. Bot. 71: 249-253.

Ikeda H, Miyamoto F. (1996) A botanical research in the Hengduan Mountains, SW China, in 1996. Newslet. Himal. Bot. 20: 1-5.

Tsukaya H, Yokoyama J, Ikeda H, Kuroiwa H, Kuroiwa T, Iwatsuki K. (1997) Morphological, physiological and molecular genetic characterization of *Arabidopsis himalaica*, with reference to *A. thaliana*. J. Plant Res. 110: 15-23.

Ikeda H, Wu SG. (1998) A new record of *Potentilla* (Rosaceae) in China. Acta Bot. Yunnan 20: 165-166.

Ikeda H, Miyamoto F. (1998) 1997 botanical research in the Hengduan Mountains, SW China. Newslet. Himal. Bot. 23: 1-5.

Ikeda H, Ohba H. (1998). Himalayan *Potentilla* and its relation to the Sino-Japanese Floristic Region. Bull. Univ. Mus. Univ. Tokyo 37: 139-146.

Ohba H, Ikeda H. (eds) (1999) A contribution to the flora of Ganesh Himal, central Nepal. The University Museum, the University of Tokyo, Nature and Culture 5: 1-84.

Naruhashi N, Ikeda H. (1999) Variation of nectar guide in Himalayan *Potentilla*

- (Rosaceae). In: Ohba H. (ed) The Himalayan Plants Vol. 3. University of Tokyo Press, pp. 23-29.
- Ikeda H, Ohba H. (1999) A systematic revision of genus *Potentilla* L. section *Leptostylae* (Rosaceae) in the Himalaya and adjacent regions. In: Ohba H. (ed) The Himalayan Plants Vol. 3. University of Tokyo Press, pp. 31-117.
- Ikeda H, Miyamoto F. (1999) 1998 botanical research in the Hengduan Mountains, SW China. Newslet. Himal. Bot. 25: 1-4.
- Akiyama S, Ikeda H, Miyamoto F, Noshiro S, Ohba H, Fang RC, Wu SK. (1999) An enumeration of the plants collected in NW Yunnan and SW Sichuan, China between 1984-1998: *Bistorta* (Polygonaceae), *Potentilla* (Rosaceae), *Saxifraga* (Saxifragaceae), *Rhododendron* (Ericaceae) and *Juncus* (Juncaceae). Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo Ser B 25(4): 151-184.
- Ikeda H, Koba H. (2000) Distribution maps of *Potentilla* sect. *Leptostylae* (Rosaceae) in Nepal. Newslet. Himal. Bot. 26: 24-30.
- Ohba H, Ikeda H. (eds) (2000) Flora of the Hinku and the Hunku Valleys, east Nepal. The University Museum, the University of Tokyo, Nature and Culture 6: 1-272.
- Miyamoto F, Ikeda H. (2001) Field research in the Sino-Japanese-American Expedition to east Tibet, 2000. Newslet. Himal. Bot. 28: 3-12.
- Ikeda H, Im HT. (2001) A new species of *Potentilla* (Rosaceae) from Korea. J. Jpn. Bot. 76: 125-128.
- Ikeda H, Ohba H. (2001) Typification of *Potentilla* Sect. *Leptostylae* Ser. *Smithianae* (Rosaceae). J. Jpn. Bot. 76: 237.
- Ikeda H. (2001) A note on nomenclature of *Potentilla rosulifera* H.Lev. (Rosaceae). J. Jpn. Bot. 76: 237-238.
- Ikeda H. (2001). *Spiraea* L. In: Iwatsuki K, Boufford DE, Ohba H. (eds) Flora of Japan IIB, Angiospermae, Dicotyledoneae, Archichlamydeae (b). Kodansha, Tokyo, pp. 104-111.
- Hoshino T, Masaki T, Ikeda H, Toyohara G. (2001) Typification of six taxa of *Carex* (Cyperaceae) described by Dr. K. Okamoto. Hikobia 13: 591-599.
- Akiyama S, Ikeda H. (2002) Sino-Japanese research on northwest Yunnan and Tibet, 2001. Newslet. Him. Bot. 29: 8-13.
- Ikeda H. (2002) Taxonomy, cytology, and phytogeography of *Potentilla* sect. *Leptostylae* (Rosaceae) in the Sino-Himalayan region. In: Noshiro S, Rajbhandari KR. (eds) Himalayan Botany in the Twentieth and Twenty-first Centuries. The Society of Himalayan Botany, pp. 117-122.
- Ikeda H, Ohba H, Wu SG. (2002) A new species in *Potentilla* Section *Leptostylae*

(Rosaceae) from Yunnan, China. *Novon* 12: 53-57.

Akiyama S, Ohba H, Ikeda H, Miyamoto F, Wu SK. (2002) An enumeration of the flowering plants collected in NW Yunnan and Tibet between 1999 and 2001: Polygonaceae, Ranunculaceae, Saxifragaceae and Rosaceae. *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo Ser B* 28: 77-92.

Hoshino T, Ikeda H. (2003). A new species of *Carex* (Cyperaceae), *C. bitchuensis*, from Okayama Prefecture, Japan. *J. Jpn. Bot.* 78: 24-28.

Miyamoto F, Ikeda H. (2003) Japan-Nepal botanical expedition to the Upper Mustang, central Nepal in 2002. *Newslet. Him. Bot.* 32: 1-8.

Li CL, Ikeda H, Ohba H. (2003) *Potentilla* Linnaeus. In: Wu ZY, Raven PH. (eds) *Flora of China* Vol. 9. Science Press (Beijing) & Missouri Botanical Garden (St. Louis), pp. 291-328.

Akiyama S, Ohba H, Ikeda H, Miyamoto F, Tsukaya H, Wu SK. (2003) An enumeration of the flowering plants collected in NW Yunnan and E & C Tibet between 1999 and 2001: Crassulaceae, Asteraceae, Juncaceae, Eriocaulaceae, and Orchidaceae. *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo Ser B* 29: 109-122.

Ikeda H, Ohba H, Subedi MN. (2004). *Sibbaldia minutissima* Kitam. (Rosaceae) is conspecific to *S. adpressa*. *Studies of the flora of Mustang, central Nepal, 2. J. Jpn. Bot.* 79: 91-95.

Fujikawa K, Ikeda H, Murata K, Kobayashi T, Nakano T, Ohba H, Wu SG. (2004) Chromosome numbers of fifteen species of the genus *Saussurea* DC. (Asteraceae) in the Himalayas and the adjacent regions. *J. Jpn. Bot.* 79: 271-280.

Mikage M, Ikeda H, Ohba H, Akiyama S. (2005) Collaborative research work for plant resources in Primorsky Resion, Russia. *Newslet. Himal. Bot.* 35: 8-20.

Ikeda H. (2005) A short trip to Mt. Kinabalu, Borneo Island (Malaysia), in quest of *Potentilla* (Rosaceae). *Newslet. Him. Bot.* 36: 10-15.

Akiyama S, Ohba H, Ikeda H, Tsukaya H, Mohamed M. (2005) A new species of *Impatiens* (Balsaminaceae) from Mt. Kinabalu, Borneo. *J. Jpn. Bot.* 80: 266-270.

Ikeda H, Akiyama S, Tsukaya H, Mohamed M, Darnaedi D. (2005) A cytological study on five species of *Impatiens* (Balsaminaceae) in Java and Borneo, Malesia. *J. Jpn. Bot.* 80: 271-277.

Tsusaka M, Ikeda H, Hoshino T. (2006) Karyomorphological analysis on diploid races of *Aucuba japonica* Thunb. (Cornaceae). *J. Jpn. Bot.* 81: 107-112.

Ikeda H, Handa K, Wu SK, Ohba H. (2006) A revision of the genus *Spenceria* Trimen (Rosaceae). *J. Jpn. Bot.* 81: 154-167.

Ishikawa N, Yokoyama J, Ikeda H, Takebe E, Tsukaya H. (2006) Reevaluation of

morphological variation in *Plantago asiatica* var. *densiuscula*, with special reference to the systematic treatment of *Plantago asiatica* var. *yakusimensis*. J. Plant Res. 119: 397-400.

Mikage M, Akiyama S, Ohba H, Ikeda H. (2007) Collaborative research for plant resources in Primorsky Krai, Russia, in 2005. Newslet. Himal. Bot. 39: 8-12.

Yano O, Nanami T, Ito K, Ikeda H, Hoshino T. (2007) Cytological studies of the genus *Carex* (Cyperaceae) in the Osumi Islands (Kagoshima Prefecture) I. Chromosome counts of five species collected from Yakushima Island. J. Jpn. Bot. 82: 29-33.

Tsusaka M, Ikeda H, Hoshino T. (2007) A karyomorphological study of diploid races of *Aucuba japonica* Thunb. (Cornaceae) in southern Japan, to confirm the presence of sex chromosomes. J. Jpn. Bot. 82: 126-129.

Ikeda H (2008) Rosaceae. In: Ohba H, Iokawa Y, Sharma LR. (eds) Flora of Mustang, Nepal. Kodansha Scientific Ltd., Tokyo, pp. 131-144.

Ikeda H, Kurosawa T, Ohba. H (2008) Chromosome numbers and karyomorphology of three species of the genus *Euphorbia* L. (Euphorbiaceae) in the Sikkim Himalaya. J. Jpn. Bot. 83: 295-300.

Yamamoto N, Ikeda H, Hoshino T. (2008) Cytotaxonomical studies of flowering plants in Yakushima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. Part I: dwarf taxa. J. Phytogeogr. Taxon. 56: 79-93.

Yamamoto N, Yano O, Ikeda H. (2009) A new hybrid, *Crepidiastrum* x *semiauriculatum* (Asteraceae: Lactuceae), from Okayama prefecture, western Japan. J. Jpn. Bot. 84: 224-228.

Akiyama S, Ikeda H, Acharya SK. (2009) Studies of Sino-Himalayan *Impatiens* (Balsaminaceae) II. A new species and a new form similar to *Impatiens racemosa* DC. from Nepal, Himalaya. Bull. Natl. Sci. Mus., Tokyo, B, 35(2): 51-56.

助成年度	平成5年度
研究者名	野間口 眞太郎
助成時の所属・職	佐賀大学教養部生物学教室助教授
研究課題名	パプアニューギニアにおけるトリバネアゲハ類の生態とその保護について
現在の所属・職	佐賀大学農学部・教授

#### 主要研究業績

- Nomakuchi S, Higashi K. (1996) Competitive habitat utilization in the damselfly, *Mnais nawai* (Zygoptera: Calopterygidae) coexisting with a related species, *Mnais pruinosa*. Res. Pop. Ecol. 38: 41-50.
- Higashi, K, Nomakuchi S. (1997) Alternative mating tactics and aggressive male interactions in *Mnais nawai* Yamamoto (Zygoptera: Calopterygidae). Odonatologica 26: 159-169.
- Sawada K, Nomakuchi S, Masamoto T, Suzuki N, Shiotsu Y, Koyanagi H, Sugiura N, Okuda N. (1997) Fluctuation of protandry in eclosion of *Anthocharis scolymus* (Lepidoptera: Pieridae): Can male eclose optimally under evolutionary equilibrium? Environ. Entomol. 26: 572-579.
- Nomakuchi S, Filippi L, Tojo S. (1998) Selective foraging behavior in nest-provisioning females of *Parastrachia japonensis* (Hemiptera: Cydnidae): Cues for preferred food. J. Insect Behav. 11: 605-619.
- Filippi L, Nomakuchi S, Hironaka M, Tojo S. (2000) Provisioned *Parastrachia japonensis* (Hemiptera: Cydnidae) nymphs gain access to food and protection from predators. Animal Behaviour 60: 757-763.
- Filippi L, Nomakuchi S, Hironaka M, Tojo S. (2000) Insemination success discrepancy between long-term and short-term copulations in the provisioning shield bug, *Parastrachia japonensis* (Hemiptera: Cydnidae). J. Ethology 18: 29-36.
- Filippi L, Hironaka M, Nomakuchi S. (2001) A review of the ecological parameters and implications of subsociality in *Parastrachia japonensis* (Hemiptera: Cydnidae), a semelparous species that specializes on a poor resource. Pop. Ecol. 43: 41-50.
- Nomakuchi S, Filippi L, Hironaka M. (2001) Nymphal occurrence pattern and predation risk in the subsocial shield bug, *Parastrachia japonensis* (Heteroptera: Cydnidae). Appl. Entomol. Zool. 36: 209-212.
- Nomakuchi S, Masamoto T, Sawada K, Sunahara T, Itakura N, Suzuki N. (2001) Possible age-dependent variation in egg-loaded host selectivity of the Pierid butterfly, *Anthocharis scolymus* (Lepidoptera: Pieridae): A field observation. J.



Insect Behav. 14: 451-458.

Filippi L, Hironaka M, Nomakuchi S. (2002) Risk-sensitive decisions during nesting may increase maternal provisioning capacity in the subsocial shield bug *Parastrachia japonensis* (Hemiptera: Cydnidae). Ecol. Entomol. 27: 152-16.

弘中満太郎, 堀口弘子, フィリッピ リサ, 野間口真太郎, 藤條純夫, 針山孝彦 (2003) ベニツチカメムシ (カメムシ亜目: ツチカメムシ科) の帰巢ナビゲーションの経時的変化, *Japanese Journal of Entomology. New Series* 6: 1-8.

Hironaka M, Nomakuchi S, Filippi L, Tojo S, Horiguchi H, Hariyama T. (2003) The directional homing behaviour of the subsocial shield bug, *Parastrachia japonensis* (Heteroptera: Cydnidae) under different photic conditions. Zool. Sci. 20: 423-428.

Filippi L, Hironaka M, Nomakuchi S. (2005) Kleptoparasitism and the effect of nest location in a subsocial shield bug *Parastrachia japonensis* (Heteroptera: Parastrachiidae). Ann. Entomol. Soc. America 98: 134-142.

Nomakuchi S, Filippi L, Iwakuma S, Hironaka M. (2005) Variation in the start of nest abandonment in the subsocial shield bug, *Parastrachia japonensis* (Hemiptera: Parastrachiidae). Ann. Entomol. Soc. America 98: 143-149.

Fujii S, Hironaka M, Nomakuchi S. (2005) Male body size and brooding success under natural conditions in the freshwater Japanese goby, *Rhinogobius* sp. OR (Orange type). J. Ethology 23: 127-132.

Hironaka M, Nomakuchi S, Iwakuma S, Filippi L. (2005) Trophic egg production in a subsocial shield bug, *Parastrachia japonensis* Scott (Heteroptera: Parastrachiidae), its functional value. Ethology 111: 1089-1102.

Hironaka M, Filippi L, Nomakuchi S, Horiguchi H, Hariyama T. (2007) Hierarchical use of chemical marking and path integration in the homing trip of a subsocial shield bug. Animal Behaviour 73: 739-745.

Hironaka M, Tojo S, Nomakuchi S, Filippi L, Hariyama T. (2007) Round-the-clock homing behaviour of a subsocial shield bug, *Parastrachia japonensis* (Heteroptera: Parastrachiidae) using path integration. Zool. Sci. 24: 535-541.

Hironaka M, Filippi L, Nomakuchi S, Horiguchi H, Hariyama T. (2007) Hierarchical utilization of chemical marking and path integration in the homing trip of a subsocial shield bug. Animal Behaviour 73: 739-745.

Hironaka M, Inadomi K, Nomakuchi S, Filippi L, Hariyama T. (2007) Canopy compass in nocturnal homing of the subsocial shield bug, *Parastrachia japonensis* (Heteroptera: Parastrachiidae). Naturwissenschaften 95: 343-346.

Grafen A, Hail, R. (野間口謙太郎・野間口真太郎訳) (2007) 生物科学のための現代統計学. 共立出版.

Hironaka M, Filippi L, Nomakuchi S, Hariyama T. (2008) Guarding behaviour against intraspecific kleptoparasites in the subsocial shield bug, *Parastrachia japonensis* (Heteroptera: Parastrachiidae). Behaviour 145, 815-827.

Filippi L, Baba N, Inadomi K, Yanagi T, Hironaka M, Nomakuchi S. (2008) Pre- and post-hatch trophic egg production in the subsocial burrower bug, *Canthophorus niveimarginatus* (Heteroptera: Cydnidae). Naturwissenschaften 10/10/08; DOI [10.1007/s00114-008-0463-z](https://doi.org/10.1007/s00114-008-0463-z). paper to follow.

Nomakuchi S, Park PJ, Bell MA. (2009) Correlation between exploration activity and use of social information in threespine sticklebacks Behav. Ecol. 20: 340-345.

McCarthy M. (野間口眞太郎訳) (2009) 生態学のためのベイズ法. 共立出版.

助成年度	平成6年度
研究者名	大窪久美子
助成時の所属・職	千葉県立中央博物館学芸研究員
研究課題名	砂漠化が進行する中国・毛烏素砂漠における自生低木林群落の動態解明とその保全に関する研究
現在の所属・職	信州大学農学部森林科学科・准教授

#### 主要研究業績

- 大窪久美子・前中久行（1995）基盤整備が畦畔草地群落に及ぼす影響と農業生態系での畦畔草地の位置づけ. ランドスケープ研究 58(5): 109-112.
- 前中久行・大窪久美子（1995）中国内蒙古の沙地の緑化に用いられている植物の切り枝の蒸散速度. ランドスケープ研究 58(5): 101-104.
- 大窪久美子・前中久行（2001）中国内モンゴル自治区毛烏素沙地における臭柏（*Sabina vulgaris* Ant））個体群の構造と動態. 日本緑化工学会誌 27(1): 84-89.
- 谷本和久・大窪久美子（2003）長野県における絶滅危惧種ミカワバイケイソウの群落特性と自生地の現状. ランドスケープ研究 66(5): 595-598.
- 大窪久美子・岡雅文（2005）三峰川水系における帰化植物フサフジウツギと在来近縁種の分布状況及び環境条件. ランドスケープ研究 68(4): 301-304.
- 九鬼なお子・大窪久美子（2005）長野県上伊那地方水田地域におけるトンボ群集構造及び環境選択と立地環境との関係. ランドスケープ研究 68(5): 579-584.
- 森有希・大窪久美子（2005）本州中部亜高山帯の半自然草原におけるヤナギラン群落の群落構造と立地環境. ランドスケープ研究 68(5): 709-712.
- 斉藤達也・大窪久美子（2006）外来植物オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* の定着した半自然草地の種組成および群落構造と遷移状況. ランドスケープ研究 69(5): 541-544.

助成年度	平成6年度
研究者名	林 文男
助成時の所属・職	東京都立大学理学部生物学科研究生
研究課題名	環境指標としての熱帯河川の水生昆虫群集
現在の所属・職	首都大学東京理工学研究科生命科学専攻・准教授

#### 主要研究業績

Hayashi F. (1995) *Eulichas incisicollis* (Coleoptera: Eulichadidae), an important decomposer of leaf litter in Asian tropical stream communities. Rep Suwa Hydrobiol. 9: 25-28.

Hayashi F. (1998) *Nanocladius (Plecopteracoluthus) asiaticus* sp. n. (Diptera: Chironomidae) phoretic on dobsonfly and fishfly larvae (Megaloptera: Corydakidae). Aquatic Insects 20: 215-229.

林文男・小林貞 (2000) 日本に生息する寄生性, 共生性ユスリカ類. 兵庫陸水生物 51/52: 281-303.

Hayashi F. (2004) Insecta: introduction. In: Yule CM, Yong HS (eds), Freshwater Invertebrates of the Malaysian Region. Academy of Sciences Malaysia, Kuala Lumpur, pp. 372-383.

助成年度	平成8年度
研究者名	刈屋達也
助成時の所属・職	北海道大学大学院獣医学研究科博士課程
研究課題名	北太平洋における海洋哺乳類に対する汚染調査
現在の所属・職	とっかり（鰭脚類）問題相談所

#### 主要研究業績

- 刈屋達也（分担執筆）（2004）和田一雄（編）海のけものたちの物語．成山堂書店、東京．
- Harakawa S, Inoue N, Hori T, Tochio K, Kariya T, Takahashi K, Koge F, Martin DE, Saito A, Suzuki H, Nagasawa H. (2005) Effects of exposure to a 50 Hz electric field on plasma levels of lactate, glucose, free fatty acids, triglycerides and creatine phosphokinase activity in hind-limb ischemic rats. *J. Vet. Med. Sci.* 67(10): 969-974.
- Harakawa S, Inoue N, Hori T, Tochio K, Kariya T, Takahashi K, Doge F, Suzuki H, Nagasawa H. (2005) Effect of a 50 Hz electric field on plasma lipid peroxidase level and antioxidant activity in rats. *Bioelectromagnetics* 26(7): 589-594.
- 小林由美, 刈屋達也, 渡邊有希子, 平松美裕子, 千島淳, 藤井啓, 中満智史, 山頭範之, 和田一雄（2005）1996年から2001年までの根室半島納沙布岬におけるゼニガタアザラシ *Phoca vitulina stejnegeri* を中心としたアザラシ類の混獲・漂着記録とその計測値．根室市歴史と自然の資料館紀要 19: 43-50.
- 山下雅道, 新井真由美, 石井忠司, 石川洋二, 泉龍太郎, 大島泰郎, 大島博, 大森克徳, 片山直美, 片山新太, 金澤晋二郎, 刈屋達也, 河崎行繁, 河崎行繁, 北宅善昭, 後藤英司, 齋藤高弘, 清水強, 白石篤志, 高沖宗夫, 高橋秀幸, 谷晃, 都木恭一郎, 富田(横谷)香織, 中島厚, 長友信人, 新田慶治, 橋本博文, 平藤雅之, 藤井義晴, 水谷 広, 三原恵次郎, 宮川照男, 向井千秋, 森滋夫, 矢野幸子, 山崎直子, 横田広樹（2005）宇宙農業構想．宇宙利用シンポジウム紀要 21: 323-326.
- 刈屋達也, 小林由美, 藤井啓, 山田京子, 中岡利泰, 長 雄一, 千嶋淳, 渡邊有希子, 齋藤幸子, 中川恵美子, 和田一雄（2006）ゼニガタアザラシの生態と保全に関する近年の動向と今後．ワイルドライフフォーラム 11(1-2): 25-38.
- 山下雅道, 新井真由美, 石井忠司, 石川洋二, 大島泰郎, 大森克徳, 片山直美, 金澤晋二郎, 刈屋達也, 北宅善昭, 後藤英司, 齋藤高弘, 齋藤孝夫, 嶋宮民安, 清水強, 白石篤志, 高沖宗夫, 武田弘, 田村憲司, 都木恭一郎, 富田(横谷)香織, 中島厚, 長友信人, 中野完, 中村祐二, 中山伸, 新田慶治, 橋本博文, 馬場啓一, 藤田修, 水谷広, 三橋淳, 三原恵次郎, 宮川照男, 森滋夫, 矢沢勇樹, 横田博樹, 和田秀徳, Robert Kok, その他宇宙農業サロン（2006）宇宙農業構想の基本骨格．宇宙利用シンポジウム紀 22: 333-336.
- Kariya T, Hori T, Harakawa S, Inoue N, Nagasawa H. (2006) Exposure to 50-Hz electric

fields on stress response initiated by infection with the protozoan parasites, *Toxoplasma gondii*, in mice. J. Protozool. Res. 16: 51-59.

Fujii K, Kakumoto C, Kobayashi M, Saito S, Kariya T, Watanabe Y, Xuan X, Igarashi I, Suzuki M. (2007) Serological evidence of influenza A virus infection in Kuril Harbor seal (*Phoca vitulina stejnegeri*) of Hokkaido, Japan. J. Vet. Med..Sci. 69(3): 259-263.

Fujii K, Kakumoto C, Kobayashi M, Saito S, Kariya T, Watanabe Y, Xuan X, Igarashi I, Suzuki M. (2007) Seroepidemiology of *Toxoplasma gondii* and *Neospora caninum* in seals around Hokkaido, Japan. J. Vet. Med. Sci. 69 (4): 393-398.

Kariya T, Igarashi M, Wada K, Burkanov VN, Koyama T, Hoshino H, Oshida T. (2008) Mitochondrial cytochrome b gene sequence diversity among Steller's sea lions (*Eumetopias jubatus*) rookeries in the Kuril Island and the Sea of Okhotsk. Mammal Study, 33: 125-129.

Igarashi M, Oohashi E, Dautu G, Ueno A, Kariya T, Furuya K. (2008) High seroprevalence of *Encephalitozoon cuniculi* in pet rabbits in Japan. J. Vet. Med..Sci. 70(12): 1301-1304.

Dautu G, Ueno A, Miranda A, Mwanyumba S, Munyaka B, Carmen G, Kariya T, Omata Y, Saito A, Xuan X, Igarashi M. (2008) *Toxoplasma gondii* detection of MIC10 antigen in sera of experimentally infected mice. Exp. Parasitol. 118: 362-371.

Kariya T, Igarashi M, Wada K, Burkanov VN, Koyama T, Hoshino H, Oshida T. (2009) Y chromosome-linked loci in Steller's sea lions (*Eumetopias jubatus*) from the Iony Island and Kuril Island lack sequence variation. Mammal Study 34: 33-36.

助成年度	平成9年度
研究者名	Udayani Rose Weerasinghe
助成時の所属・職	東京大学大学院農学生命科学研究科大学院生
研究課題名	スリランカのアジアゾウに関する保全生態学的研究
現在の所属・職	Wildlife Ecologist (Contact address: No: 10, Laurel Close, Riverton, WA 6148, Australia)

#### 主要研究業績

- Weerasinghe UR, Takatsuki S. (1999) A record of acorn-eating by sika deer in western Japan. *J. Ecol. Res.* 14(2): 205-209.
- Weerasinghe UR, Jayasekara P, Takatsuki S. (1999) A record of the food retention time of the Asiatic elephant, *Elephas maximus*. *Mammal Study* 24(2): 115-119.
- Jayasekara P, Takatsuki S, Weerasinghe UR, Wijesundara S. (2003) Arboreal fruit visitors in a tropical forest in Sri Lanka. *Mammal Study* 28: 161-165.
- Weerasinghe UR, Shimizu A, Jayasekara P, Takatsuki S. (2008) The role of the soil seed bank in the recovery of Nakoudojima, an oceanic island severely damaged by introduced goats. *Appl. Veget. Sci.* 11: 355-364.
- Campos-Arceiz A, Larrinaga AR, Weerasinghe UR, Takatsuki S, Pastorini J, Leimgruber P, Fernando P, Santamari'a L. (2008) Behavior rather than diet mediates seasonal differences in seed dispersal by Asian elephants. *Ecology* 89(10): 2684-2691.

助成年度	平成 10 年度
研究者名	柴崎茂光
助成時の所属・職	東京大学大学院農学生命科学研究科大学院生
研究課題名	農山村社会の経済・社会・自然環境が山村から都市への人口流出に及ぼす影響—フィリピンを事例として—
現在の所属・職	岩手大学農学部・准教授

#### 主要研究業績

- 永田信・安村直樹・新開毅・柴崎茂光（1996）建築の製材・合板使用原単位のマクロ的推計. 林業経済研究 129: 165-170.
- 柴崎茂光（1996）漁民による植林活動とその歴史的背景—気仙沼地方を事例として—. 森林文化研究 17: 69-81.
- 安村直樹・永田信・柴崎茂光・田村早苗・原田一宏・金相潤（1997）森林に対する国民の期待について—諸塚村と文京区のアナケート結果より—. 東大演報 97: 129-147.
- 永田信・柴崎茂光・瀬畑孝典（1997）森林整備の上・下流の協力に関する市町村の意向について. 日林論 108: 57-60.
- Shibasaki S, Nagata S. (1999) Estimation of the number of tourists to Yakushima Island. *J. Forest Econ.* 45(3): 33-38.
- 永田信・柴崎茂光・栗山浩一（2000）環境価値評価とは. 栗山浩一・北畠能房・大島康行（編）『世界遺産の経済学』, 勁草書房, 東京 pp. 17-39.
- 柴崎茂光・永田信（2000）屋久島の利用価値の評価. 栗山浩一・北畠能房・大島康行（編）『世界遺産の経済学』, 勁草書房, 東京 pp. 65-103.
- 柴崎茂光・坂田裕輔・永田信（2003）屋久島における年間観光客と観光需要特性の推計—離島におけるより精度の高い推計方法—. 東大演報 110: 1-25.
- 柴崎茂光（2003）経済的不平等・貧困・人間開発. (アジア環境白書 2003/2004, 日本環境会議/「アジア環境白書」編集委員会編集, 東洋経済新報社, 東京 pp. 306-309.
- Sakata Y, Shibasaki S. (2003) Sustainable tourism and its economic impact on Yakushima. *Discussion Papers in Economics and Sociology* No. 302.
- 柴崎茂光・坂田裕輔・永田信（2003）屋久島のエコツアー業に関する経済分析. 2003 年林業経済学会秋季大会報告資料集: 256.
- 深見聡・坂田裕輔・柴崎茂光（2003）屋久島における滞在型エコツーリズム—地域住民との連携を主軸とした確立可能性—. 島嶼研究 4: 41-55.
- 後藤尚弘・浦野真弥・藤江幸一・柴崎茂光・坂田裕輔・永田信（2004）物質フロー解析による循環社会の設計手法の検討. 2004 年電気学会研究会資料 35-40.
- 浦野真弥・後藤尚弘・藤江幸一・柴崎茂光・坂田裕輔・永田信（2004）家庭における物質フローの解析. 環境衛生工学研究 18(3): 125-128.



- 浦野真弥・後藤尚弘・藤江幸一・柴崎茂光・坂田裕輔・永田信 (2004) 屋久島における家庭への移入物量および移出物量に関する調査. 廃棄物学会研究発表会講演論文集 65-67.
- 柴崎茂光 (2004) 屋久島の観光ブームを考える. 山林 1445: 29-35.
- 柴崎茂光・永田信 (2005) エコツーリズムの定義に関する再検討—エコツーリズムは地域にとって持続可能な観光か? 林業経済 675: 2-21.
- 柴崎茂光 (2005) 岐路に立った屋久島の観光. 森林環境研究会 (編) 『森林環境 2005』 森林文化協会, 東京 pp. 61-73.
- 柴崎茂光 (2005) 屋久島における持続可能な観光のあり方について. 農業と経済 71(6): 39-48.
- Shibasaki S. (2005) Economic inequality, poverty and human development. Japan Environmental Council (ed.), The State of the Environment in Asia 2005/06. Springer, Tokyo. pp. 233-237.
- Shoji Y, Shibasaki S. (2005) Will a new inscription of a national park in Japan on the World Natural Heritage list benefit visitors? J. Forest Econ. 51(2): 21-29.
- 広嶋卓也・山本清龍・田中延亮・柴崎茂光・堀田紀文・坂上大翼 (2006) 富士山を題材とした森林教育プログラムの開発、実践と効果把握—初等・中等学校における森林教育実践上の課題と対応策. 日本森林学会誌 88(3): 160-168.
- 本田裕子・西口 元・山崎麻里・柴崎茂光・永田信 (2006) よそ者としての観光客が野生生物の観光利用に果たす役割—東京都小笠原村を事例に—. 林業経済 693: 1-12.
- 永田信・柴崎茂光・庄子康 (2006) 環境経済学. 林業経済学会 『林業経済研究の論点—50年の歩みから—』 東京 pp. 553-581.
- 柴崎茂光・枚田邦宏・横田康裕・永田信 (2006) 世界自然遺産登録が地域資源管理体系に及ぼす影響—屋久島の山岳地域を事例として—. 林業経済 697: 1-16.
- 柴崎茂光・柘植隆宏・土屋俊幸・永田信 (2006) 世界遺産登録に対する住民の意向について—鹿児島県屋久島を事例として—. 日本観光学会全国大会論文集 21: 141-144
- 柴崎茂光 (2007) 共生と対流をもたらすエコツーリズム. 『森林と木材を活かす事典—地球環境と経済の両立のための情報集大成—』 産業調査会, 東京 pp. 308-309.
- 柴崎茂光・枚田邦宏・横田康裕・永田信 (2007) 世界自然遺産登録が地域資源管理体系に及ぼす影響—周縁部としての里地・海岸地域、および屋久島全体からの分析—. 林業経済 704: 1-16.
- 柴崎茂光 (2007) 世界遺産登録は屋久島に何をもたらしたか?. 計画行政 30(2):18-24.
- Shibasaki S, Shoji Y, Tsuge T, Yokota Y, Hirata K, Tsuchiya T, Nagata S. (2007) Has the designation of a World Heritage site led to environmental improvement or environmental destruction? A case study of Yakushima Island, Japan. 13th International Symposium on Society and Resource Management (Park city, Utah,

USA) p. 401.

堀田紀文・広嶋卓也・坂上大翼・山本清龍・田中延亮・柴崎茂光（2007）森林の多面的機能を題材とした森林教育テキストの作成方針—既往の森林教育テキストの比較解析から—。日林誌 89: 374-382

柴崎茂光・庄子康・柘植隆宏・土屋俊幸・永田信（2008）世界遺産管理における住民参加の可能性—鹿児島県屋久島の島民意向調査から探る—。地球環境 13(1): 71-80

柴崎茂光（2008）世界遺産登録は有効な地域振興策か？—鹿児島県屋久島を事例として—。国立公園 666: 19-22.

助成年度	平成 11 年度
研究者名	溝田浩二
助成時の所属・職	北海道大学農学部昆虫体系学講座大学院生
研究課題名	ボルネオ島におけるカミキリモドキ科甲虫の多様性とその訪花性に関する基礎研究
現在の所属・職	宮城教育大学附属環境教育実践研究センター・准教授

#### 主要研究業績

- 溝田浩二 (2001) カミキリモドキ. 日本ペストコントロール協会 (編) 『原色ペストコントロール図説第V集』 pp. 178-201.
- 溝田浩二・山内 智 (2001) 青森県のカミキリモドキ科について. 青森自然誌研究 6: 67-71
- 溝田浩二・山内 智 (2001) ロシア・ハバロフスク地方のカミキリモドキ類若干種について. 青森県立郷土館調査研究年報 25: 61-62.
- 山内 智・溝田浩二 (2001) 青森県立郷土館所蔵の下山健作コレクション: カミキリモドキ科目録. 青森県立郷土館調査研究年報 25: 91-92.
- Ohara M, Mazur S, Mizota K, Mohamed M. (2001) Records of the hiseterid beetles (Coleoptera, Histeridae) from the Crocker Range Park, Sabah, East Malaysia: A report of the International Crocker Range Scientific Expedition 1999-. Nature and Human Activities 6: 59-63.
- Mizota K. (2001) Systematic study of *Xanthochroina* (Coleoptera: Oedemeridae), with particular references to its disjunct distributional pattern. Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology 1: 227-240.
- Tatsuta H, Mizota K, Akimoto S. (2001) Allometric patterns of heads and genitalia in the stag beetle, *Lucanus maculifemoratus* (Coleoptera: Lucanidae). Ann. Entomol. Soc. America 94(3): 462-466.
- Mizota K. (2001) Additional records on dermatitis caused by three oedemerid species (Coleoptera: Oedemeridae). Med. Entomol. Zool. 52(1): 63-66.
- 溝田浩二 (2002) 金華山における昆虫研究—これまでとこれから—. 宮城教育大学環境教育研究紀要 4: 9-18.
- 溝田浩二 (2002) ツマグロカミキリモドキの暮らし・ヒトの暮らし (1). 昆虫と自然 37(14): 35-38.
- 溝田浩二 (2002) ツマグロカミキリモドキの暮らし・ヒトの暮らし (2). 昆虫と自然 38(7): 29-31.
- 溝田浩二 (2002) ツマグロカミキリモドキの暮らし・ヒトの暮らし (3). 昆虫と自然 38(11): 40-43.
- 溝田浩二 (2003) ミャンマーにおける環境 NGO の国際協力活動: オイスカ・インターナ

- ショナルでの有機農業体験を通して. 宮城教育大学環境教育研究紀要 5: 83-92.
- 溝田浩二 (2003) 宮城県金華山島産昆虫リスト: 文献記録の整理. 宮城教育大学環境教育研究紀要 5: 69-78.
- 溝田浩二 (2003) ミャンマー農村生活からの提言. 技術教室 607: 44-49.
- 溝田浩二 (2004) 門外漢のための「学名」のはなし. 化学と生物 42(2): 99-103.
- Tatsuta, H., Mizota, K. and Akimoto, S. (2004) Relationship between size and shape in the sexually dimorphic beetle *Prosopocoilus inclinatus* (Coleoptera: Lucanidae). *Biological Journal of the Linnean Society*, 81: 219-233.
- 溝田浩二・小畑明子・青木 瞳・山根岳志 (2005) 巣穴形成型アリジゴクを題材とした環境教育プログラムの実践. 宮城教育大学環境教育研究紀要 7: 49-58.
- Kon, M., Mizota, K. and Araya, K. (2005) Passalidae (Coleoptera) recorded from the Crocker Range, Sabah, Malaysia. *Journal of Tropical Biology and Conservation*, 1: 31-46.
- 溝田浩二 (2006) 青葉山フィールドミュージアム構想. 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 89-93.
- 溝田浩二・移川 仁 (2006) 青葉山市有林 (仙台市) の植物相 (1). 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 95-104.
- 移川 仁・溝田浩二 (2006) 青葉山市有林 (仙台市) の植物相 (2). 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 105-111.
- 根本敬子・移川 仁・溝田浩二 (2006) 青葉山市有林 (仙台市) のキノコ相. 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 113-122.
- 大島一正・遠藤洋次郎・溝田浩二 (2006) 青葉山市有林 (仙台市) のチョウ相. 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 123-130.
- 移川 仁・斉藤千映美・溝田浩二 (2006) 青葉山市有林 (仙台市) の哺乳類相. 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 131-138.
- 移川 仁・溝田浩二 (2006) 青葉山市有林 (仙台市) の鳥類相. 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 139-146.
- 溝田浩二・移川仁 (2006) 青葉山市有林 (仙台市) の両生爬虫類相. 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 147-152.
- 見上一幸・鶴川義弘・岡 正明・川村寿郎・桔梗佑子・小金澤孝昭・西城 潔・斉藤千映美・島野智之・平真木夫・鳥山 敦・溝田浩二・村松 隆・安江正治・吉村敏之・渡辺孝男 (2006) 教員養成大学としての一つの試み—宮城教育大学環境教育実践研究センター”えるふえ”事業の役割と課題—. *環境教育* 16(1): 56-60.
- 溝田浩二・遠藤洋次郎 (2007) チョウ類の生息調査から始めるバタフライガーデンづくり—宮城教育大学における実践事例—. 宮城教育大学環境教育研究紀要 9: 17-25.
- 見上一幸・鶴川義弘・岡 正明・川村寿郎・桔梗佑子・小金澤孝昭・西城 潔・斉藤千映美・

島野智之・平真木夫・鳥山 敦・溝田浩二・村松 隆・安江正治・吉村敏之・渡辺孝男  
(2007) 宮城教育大学の学校環境教育総合支援システム“えるふえ”の設立と活動. 宮  
城教育大学環境教育研究紀要 9: 9-16.

Tatsuta H, Fujimoto K, Mizota K, Reinhardt K, Akimoto S. (2007) Distinctive  
developmental variability of genital parts in the sexually dimorphic beetle  
*Prosopocoilus inclinatus* (Coleoptera: Lucanidae). Biol. J. Linnean Soc. 90: 573-581.

溝田浩二・遠藤洋次郎・宮川 歩 (2008) 宮城教育大学バタフライガーデンのチョウ類. 宮  
城教育大学環境教育研究紀要 10: 33-42.

海藤祥子・溝田浩二 (2008) 青葉山市有林 (仙台市) の虫こぶ. 宮城教育大学環境教育研究  
紀要 10: 43-52.

溝田浩二 (2008) 青葉山フィールドミュージアム構想—持続可能な地球のための教育—. 形  
の科学会誌 23(1): 51-52.

斉藤千映美・田中ちひろ・小野寺順也・村松 隆・鶴川義弘・島野智之・溝田浩二 (2009)  
マダガスカルの動物園教育を通じた自然保全への協力. 宮城教育大学環境教育研究紀  
要 11: 1-6.

溝田浩二・松本 一・遠藤洋次郎 (2009) 宮城教育大学バタフライガーデンのチョウ類群集  
の多様性. 宮城教育大学環境教育研究紀要 11: 7-16.

溝田浩二・遠藤洋次郎 (2009) 宮城教育大学バタフライガーデンを活用した小学生向け体  
験的環境学習の実践. 宮城教育大学環境教育研究紀要 11: 17-24.

小畑明子・溝田浩二 (2009) アリジゴクの教材性—その可能性と課題. 食農教育 69: 26-27.

助成年度	平成 12 年度
研究者名	大沼 学
助成時の所属・職	北海道大学大学院獣医学研究科環境獣医科学講座大学院生
研究課題名	マレーグマの生殖周期の解明
現在の所属・職	独立行政法人国立環境研究所研究員

#### 主要研究業績

- 浅川満彦、大沼学、立島拓也、大林正士 (1991) 洞爺湖中島産ヒメネズミに見られた条虫科幼虫 *armathyridium* の形態学的検討. 酪農学園大学紀要 (自然科学) 16: 9-13.
- Asakawa M, Hasegawa H, Ohnuma M, Tatsushima T, Ohbayashi M. (1992) Parasitic nematodes of rodents on the off-shore islands of Hokkaido. *Jpn. J. Parasitol*, 41: 40-41.
- Onuma M, Suzuki M, Ohtaishi N. (2001) Reproductive pattern of the sun bear (*Helarctos malayanus*) in Sarawak, Malaysia. *J. Vet. Med. Sci.* 63: 293-297.
- Yokoyama M, Onuma M, Suzuki M, Kaji K. (2001) Seasonal and sexual differences of kidney and kidney fat mass in sika deer on Hokkiado Island, Japan, *Acta Theriol.* 46: 419-428.
- Suzuki M, Onuma M, Yokoyama M, Kaji K, Yamanaka M, Ohtaishi N. (2001) Body size, sexual dimorphism, and seasonal mass fluctuations in a larger sika deer subspecies, the Hokkaido sika deer (*Cervus nippon yesoensis* Heude, 1884). *Can. J. Zool.* 79: 154-159.
- Suzuki M, Nakamura Y, Onuma M, Tanaka J, Takahashi H, Kaji K, Ohtaishi N. (2001) Acid-base status and blood gas arterial values in free-ranging sika deer hinds immobilized with medetomidine and ketamine, *J. Wildl. Dis.* 37: 366-369.
- Mahmut H, Ganzorig S, Onuma M, Masuda R, Suzuki M, Ohtaishi N. (2001) A preliminary study on the genetic diversity of Xinjiang Tarim red deer (*Cervus elaphus yarkandensis*) using microsatellite DNA method. *Jpn. J. Vet. Res.* 49: 231-237.
- Onuma M, Suzuki M, Uchida E, Niyama M, Ohtaishi N. (2002) Annual changes in fecal estradiol-17 $\beta$  concentrations of the sun bear (*Helarctos malayanus*) in Sarawak, Malaysia. *J. Vet. Med. Sci.* 64: 309-313.
- Onuma M. (2002) Daily ranging patterns of proboscis monkey (*Nasalis larvatus*) in coastal area of Sarawak, Malaysia. *Mammal Study* 27: 141-144.
- Mahmut H, Masuda R, Onuma M, Takahashi M, Nagata J, Suzuki M, Ohtaishi N. (2002) Molecular phylogeography of the red deer (*Cervus elaphus*) population in Xinjiang of China: Comparison with other Asian, European, and North American

populations. Zool. Sci. 19: 485-495.

高橋裕史、梶光一、吉田光男、釣賀一二三、車田利夫、鈴木正嗣、大沼学 (2002) シカ捕獲ワナアルパインキャプチャーシステムの改良. 哺乳類科学 42: 45-51.

Satoh Y, Mano T, Tsuruga H, Masuda R, Matsuhashi T, Onuma M, Suzuki M, Ohtaishi N. (2003) Polymerase chain reaction fragment length polymorphism (PCR-RFLP) method for mtDNA typing in Hokkaido brown bear (*Ursus arctos yesoensis*). Jpn. J. Vet. Res. 50: 195-199.

Hattori K, Burdin AM, Onuma M, Suzuki M, Ohtaishi N. (2003) Sex determination in sea otter (*Enhydra lutris*) from tissue and dental pulp using PCR amplification. Can. J. Zool. 81: 52-56.

Onuma M. (2003) The sunbears (*Helarctos malayanus*) immobilization with Medetomidine-Zolazepam-Tiletamine mixture. J. Zool. Wildl. Med. 34: 202-205.

Mizuno WA, Onuma M, Takahashi M, Ohtaishi N. (2003) Population genetic structure of the spotted seal (*Phoca largha*) along the coast of Hokkaido based on mitochondrial DNA sequences. Zool. Sci. 20: 783-788.

Hasegawa H, Matsuo K, Onuma M. (2003) *Enterobius (Colobenterobius) serratus* sp. nov. (Nematoda: Oxyuridae) from the proboscis monkey, *Nasalis larvatus* (Wurmb, 1787) (Primates: Cercopithecidae: Colobinae), in Sarawak, Borneo, Malaysia. Comp. Parasitol. 70: 128-131.

大沼学 (2004) マレーシア国サラワク州におけるマレーグマ (*Helarctos malayanus*) 飼育個体群の存続可能性分析. 日本野生動物医学会誌 9: 1-8.

大塚浩子、大沼学、福本真一郎、向井猛、白水彩、千葉司、浅川満彦 (2004) マレーバク (*Tapirus indicus*) 糞便中に認められた虫卵の COX1 および ITS 領域塩基配列を指標とした寄生蠕虫類同定の試み. 日本野生動物医学会誌 9: 31-37.

高橋裕史、梶光一、田中純平、浅野 玄、大沼学、上野真由美、平川浩文 (2004) 赤松里香囲いワナを用いたニホンジカの大量捕獲. 哺乳類科学 44: 1-15.

Iinuma YM, Suzuki M, Matsuura Y, Asano M, Onuma M, Ohtaishi N. (2004) Identification and morphological characteristics of neonatal line in sika deer (*Cervus nippon*). Jpn. J. Vet. Res. 51: 161-166.

大沼学、高橋裕史、中村友香、田中純平、浅野玄、松井基純、釣賀一二三、鈴木正嗣、梶光一、大泰司紀之 (2004) 凍結乾燥塩酸メデトミジンを利用したエゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) の化学的不動化. 日本野生動物医学会誌 9: 125-129.

浅野玄、大沼学、高橋裕史、服部薫、上野真由美、島絵里子、梶光一 (2004) エゾシカにおけるキシラジン-ケタミン混合薬に対するアチパメゾール拮抗効果. 日本野生動物医学会誌 9: 131-134.

Suzuki M, Yokoyama M, Onuma M, Takahashi H, Yamanaka M, Okada H, Ichmura Y,

- Ohtaishi N. (2004) Significant relationships between the serum leptin concentration and the conventional fat reserve indices in a wildlife species, Hokkaido sika deer (*Cervus nippon yesoensis*). Wildl. Res. 31: 97-100.
- Takahashi H, Yokoyama M, Suzuki M, Onuma M, Ichimura Y, Yamanaka M, Okada H. (2004) Measuring the rump fat of the Hokkaido sika deer *Cervus nippon yesoensis*. Mammal Study 29: 175-178.
- Kobayashi A, Onuma M, Yokoyama M, Suzuki M, Uno H, Ohtaishi N. (2004) Evaluation of fetal growth and estimation of fetal age based on skeletal growth in Hokkaido sika deer (*Cervus nippon yesoensis* Heude, 1884), J. Vet. Med. Sci. 66: 1535-1542.
- Onuma M, Ueno Y, Matsubayashi K. (2005) Preliminary research on excretion of urinary 8-Hydroxyguanosine (8-OHdG) as a marker of health status in Japanese macaque (*Macaca fuscata*). Jpn. J. Zool. Wildl. Med. 10: 53-55.
- 大沼学、高橋裕史、浅野玄、上野真由美、鈴木正嗣、梶光一 (2005) 野外におけるエゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) の生体捕獲法と化学的不動化法について. 日本野生動物医学会誌 10: 19-26.
- 大沼学、長嶺隆、稲葉真子、川嶋貴治、桑名貴、浅川満彦 (2005) ヤンバルクイナ *Rallus okinawae* から検出された *Heterakis* 属線虫 (盲腸虫科). 日本獣医寄生虫学会誌 4: 49.
- Mochizuki R, Endoh D, Onuma M, Fukumoto S. (2006) PCR-based species-specific amplification of ITS of *Mecistocirrus digitatus* and its application in identification of GI nematode eggs in bovine faeces, J.Vet. Med. Sci. 68: 345-351.
- Thomsen R, Soltis J, Matsubara M, Matsubayashi K, Onuma M, Takenaka O. (2006) How costly are ejaculates for Japanese macaques? Primates 47: 272-274.
- Onuma M, Suzuki M, Ohtaishi N. (2006) Possible conservation units of the sun bear (*Helarctos malayanus*) in Sarawak based on variation of mtDNA control region, Jpn. J. Vet. Res. 54: 135-139.
- 大沼学、大島由子、久田裕子、岡本 実、上林亜紀子、志村良治、齋藤慶輔、村田浩一、桑名 貴、浅川満彦 (2007) 北海道産希少鳥類を対象にした寄生原虫類に関する疫学および病理学的検討. 日本獣医寄生虫学会誌 6: 27.
- 吉野智生、国藤泰輔、渡辺竜己、久木田優美、前田秋彦、萩原克郎、村田浩一、大沼学、桑名 貴、浅川満彦 (2007) 輸入牧草に混入北海道内でその死体が発見されたホシムクドリ *Sturnus vulgaris* の記録. 北海道獣医師会誌 51: 68-70.
- 村田浩一、佐藤雪太、津田良夫、沢辺京子、齋藤慶輔、渡邊有希子、浅川満彦、大沼学、桑名 貴 (2008) シギ・チドリ類の血液原虫感染を指標とした節足動物媒介感染症モニタリング. 日本獣医寄生虫学会誌 6: 42.
- Yoshino T, Onuma M, Nagamine M, Inaba M, Kawashima T, Murata K, Kawakami K, Kuwana T, Asakawa M. (2008) First record of the genus *Heterakis*



(Nematoda: Heterakidae) obtained from two scarce avian species, Japanese rock ptarmigan (*Lagopus mutus japonicus*) and Okinawa rails (*Gallirallus okinawae*) in Japan" *Jpn. J. Nematol.* 38(2): 89-92.

Asakawa M, Onuma M, Yoshino T, Aizawa K, Sasaki H, Maeda A, Ssaito M, Kato N, Morita T, Murata K, Kuwana T. (2008) Risk assessment of Japanese avian infectious diseases performed by the Wild Animal Medical Center (WAMC), Rakuno Gakuen University, Japan. *J. Vet. Epidemiol.* 12: 25-26.

吉野智生、長 雄一、遠藤大二、金子正美、高田雅之、田村 豊、大沼 学、桑名 貴、浅川満彦 (2008) "野生鳥類の寄生蠕虫類を対象にした地理情報システム (GIS) を用いた空間疫学的解析の一例. *日本生物地理学会報* 63: 217-222.

助成年度	平成 13 年度
研究者名	金田 大
助成時の所属・職	京都大学大学院理学研究科修士課程大学院生
研究課題名	ジャワクマタカ保護のための生態の解明
現在の所属・職	

主要研究業績

- Kaneda H, Yamagishi S. (2005) Video analysis of Hodgson's Hawk-Eagle *Spizaetus nipalensis* predation on live chicken. J. Yamashina Inst. Ornithol. 36: 145-149.
- Kaneda H, Prawiradilaga DM, Yamagishi S. (2007) Home range and habitat use of an individual Javan Hawk-Eagle *Spizaetus bartelsi*. J. Raptor Res. 41: 68-71.
- Hongo Y, Kaneda H. (2009) Field observations of predation by the Ural Owl *Strix uralensis* upon the Japanese Horned Beetle *Trypoxylus dichotomus septentrionalis*. J. Yamashina Inst. Ornithol. 40: 90-95.
- Kaneda H. (2009) Prey selection and provisioning rate of a breeding pair of Hodgson's Hawk-Eagles *Nisaetus nipalensis*. Ornithol. Sci. 8: 151-156.

助成年度	平成 14 年度
研究者名	久世濃子
助成時の所属・職	東京工業大学生命理工学研究科博士課程大学院生
研究課題名	野生復帰過程におけるオランウータンの行動学的研究
現在の所属・職	京都大学野生動物研究センター・日本学術振興会特別研究員

#### 主要研究業績

久世濃子 (2004) マレーシア・サバ州におけるオランウータンの調査と保護の現状. 霊長類研究 20: 77-80.

Kuze N, Malim TP, Kohshima S. (2005) Developmental changes in the facial morphology of the Borneo orangutan (*Pongo pygmaeus*): possible signals in visual communication. *Am. J. Primatol.* 65(3): 353-376.

久世濃子 (2006) 第 21 回国際霊長類学会におけるオランウータンに関する研究発表の報告. 霊長類研究 22: 146-147.

金森朝子, 久世濃子 (2006) ボルネオ島ダナムバレー森林保護地域における野生オランウータン調査地. 霊長類研究 22: 51-56.

Kuze N, Sipangkui S, Malim TP, Bernard H, Ambu LN, Kohshima S. (2008) Reproductive parameters over a 37-year period of free-ranging female Borneo orangutans at Sepilok Orangutan Rehabilitation Centre. *Primates* 49: 126-134.

Morrogh-Bernard HC, Ancrenaz M, Husson SJ, Kanamori T, Knott CD, Kuze N, Lackman-Ancrenaz I, Marshall AJ, van Noordwijk M, van Schaik CP, Wich SA. (2009) Orangutan activity budgets: a comparison between species, population and habitats. In Wich SA, Utami SS, Setia TM, van Schaik CP. (eds) *Orangutans: Geographical Variation in Behavioral Ecology*. Oxford University Press, Oxford, pp. 119-133.

Russon A, Wich S, Ancrenaz M, Kanamori, T, Knott C, Kuze N, Morrogh-Bernard HC, Pratje P, Ramlee H, Rodman P, Sidiyasa K, Singleton I, van Schaik CP. (2009) Geographic variation in orangutan diets. In Wich SA, Utami SS, Setia TM, van Schaik CP. (eds) *Orangutans: Geographical Variation in Behavioral Ecology*. Oxford University Press, Oxford, pp. 135-156.

久世濃子 (2009) 「セックスをめぐる葛藤—オランウータンを中心に」奥野克巳, 椎野若菜, 竹ノ下祐二 (編) 『セックスの人類学 (シリーズ来たるべき人類学)』春風社, pp. 74-103.

助成年度	平成 15 年度
研究者名	里村多香美
助成時の所属・職	京都大学生態学研究センター講師
研究課題名	ボルネオ島の熱帯雨林の持続的保全を目指した樹木と菌類の共生関係の解明
現在の所属・職	香川大学農学部協力研究員

#### 主要研究業績

Satomura T, Nakatsubo T, Horikoshi T. (2003) Estimation of the fine roots and mycorrhizal fungi: A case study in a Japanese red pine (*Pinus densiflora*) stand. J. Forest Res. 8: 221-225.

Satomura T, Hashimoto Y, Koizumi H, Nakane K, Horikoshi T. (2006) Seasonal patterns of fine root demography in a cool-temperate deciduous forest in central Japan. Ecol. Res. 21: 741-753.

Satomura T, Hashimoto Y, Kinoshita A, Horikoshi T. (2006) Methods to study the role of ectomycorrhizal fungi in forest carbon cycling 1: Introduction to the direct methods to quantify the fungal content in ectomycorrhizal fine roots. Root Res. 15: 119-124.

Satomura T, Hashimoto Y, Kinoshita A, Horikoshi T. (2006) Methods to study the role of ectomycorrhizal fungi in forest carbon cycling 2: Ergosterol analysis method to quantify the fungal content in ectomycorrhizal fine roots. Root Res. 15: 149-154.

Satomura T, Hashimoto Y, Kinoshita A, Horikoshi T. (2006) Methods to study the role of ectomycorrhizal fungi in forest carbon cycling 3: Quantification of the amount of carbon consumed by ectomycorrhizal fungi in a Japanese red pine forest. Root Res. 15: 155-159.

智和正明・田原康作・井田秀行・里村多香美・小林剛・堀越孝雄・佐久川弘 (2006) 広島県極楽寺山におけるアカマツ衰退度の異なる林分の土壌化学性. 森林応用研究 15: 87-92.

里村多香美・橋本靖・木下晃彦・堀越孝雄 (2007) 植物の根に関する諸問題 (165) - 森林の炭素循環における外生菌根菌の役割 -. 農業および園芸 82: 521-525.

Satomura T, Fukuzawa K, Horikoshi T. (2007) Considerations in the study of tree fine-root turnover with minirhizotrons. Plant Root 1: 34-45.

Satomura T. (2007) Modified method of the quantification of arbuscular mycorrhizal fungal spores from a clayey soil. Tropics 16: 337-341.

Ohtsuka T, Mo W, Satomura T, Inatomi M, Koizumi H. (2007) Process level carbon flux measurements and net ecosystem production (NEP) in a temperate deciduous broad-leaved forest beneath a flux tower. Ecosystems 10: 324-334.

Noguchi K, Konôpka B, Satomura T, Kaneko S, Takahashi M. (2007) Biomass and production of fine roots in Japanese forests. *J. Forest Res.* 12: 83-95.

Kinoshita A, Satomura T, Hashimoto Y, Horikoshi T. (2007) Fungal content of ectomycorrhizal tips: comparison among 13 tree species. *Mycoscience* 48: 160-168.

藤吉正明・里村多香美 (2007) アーバスキュラー菌根実験法 (9) アーバスキュラー菌根菌のバイオマス推定. *土と微生物* 61: 91-97.

助成年度	平成 16 年度
研究者名	渡辺 名月
助成時の所属・職	鹿児島大学大学院理工学研究科博士課程大学院生
研究課題名	ボルネオ島とジャワ島の熱帯雨林におけるロタンの保全生態学的研究
現在の所属・職	住友林業株式会社筑波研究所資源グループ研究員

#### 主要研究業績

- Miyamoto J, Nakayama M, Watanabe NM, Suzuki E. (2006) Genetic and morphological variation in *Licuala paludosa* Griff. and the related taxa in the Tasek Merimbun Heritage Park, Borneo. *Tropics* 15: 237-243.
- Watanabe NM, Miyamoto J, Suzuki E. (2006) Growth strategy of the stoloniferous rattan *Calamus javensis* in Mt. Halimun, Java. *Ecol. Res.* 21: 238-245.
- Watanabe NM, Suzuki E. (2007) Ontogenetic development in architecture and biomass allocation of 13 rattan species in Indonesia. *J. Plant Res.* 120: 551-561.
- Watanabe NM, Suzuki E. (2008) Species diversity, abundance, and vertical size structure of rattans in Borneo and Java. *Biodivers Conserv* 17: 523-538.
- Watanabe NM, Suzuki E, Simbolon H. (2009) Reestablishment of rattans after forest fire in East Kalimantan, Borneo. *Tropics* 18: 13-21.